

第8回立教大学諮問委員会記録

日 時：2019 年 3 月 4 日（月） 16:00～18:30

場 所：太刀川記念館 2 階会議室

出席者：

<諮問委員> (50 音順)

インクラン セルジオ（在日メキシコ大使館公使）

内田 和成（早稲田大学経営管理研究科教授、元ボストン・コンサルティング・グループ日本代表）

寺田 美穂（コニカミノルタ株式会社 DX ブランド推進部クリエイショングループグループリーダー）

成田 純治（博報堂 DY ホールディングス取締役会長・日本広告業協会理事長）

春山 美樹（日産自動車株式会社日本フリート事業本部副本部長）

藤崎 斉（日本ホテル株式会社常務取締役、東京ステーションホテル総支配人）

吉田 正樹（株式会社ワタナベエンターテインメント代表取締役会長）

<立教大学>

郭 洋春（総長）、池上 岳彦（統括副総長）、大山 秀子（副総長）、

野澤 正充（副総長）、池田 伸子（副総長）、松尾 哲也（副総長）、

外山 公美（総長室長）、池田 毅（総長室次長）、

戸井田 和彦（学院管理担当常務理事）

<事務局>

菅谷 寧（総長室事務部長）、遠藤 裕子（総長室次長）、長野 香（総長室次長）、

西崎 大（総長室次長）、高山 智大（教学改革課長）、合田 景子（秘書課長）

1. 総合発展基本構想（2018-2024）についての紹介

表記について、池上統括副総長より、配布資料「総合発展基本構想 2018-2024」に沿って、創立 150 周年に向け、2018 年 11 月に策定された VISION、GOAL、4 つの中核戦略、13 の基盤戦略と取り組み事例が紹介された。概要は以下の通りである。

（1）VISION（中長期目標）

【Rikkyo Vision 2024 - Lead the way -】個性を活かしアジアで際立つ大学

普遍的な真理を探究し、世界、社会、隣人のために尽くすという建学の精神を踏まえ、それを 21 世紀前半の時代に相応しい内容にアレンジし、日本で評価さ

れ、アジアで輝き、世界から注目される大学を目指す。

(2) GOAL (2024年の達成目標)

強みを伸ばし、魅力を高め、選ばれる大学へー競争力を強化し、アジア圏で躍進するー TGU (スーパーグローバル大学創成支援事業) の核として掲げた「Rikkyo Global 24 (立教大学 スーパーグローバル大学構想)」を推進しつつ、立教らしい国際化を進めていく。学生を海外に送るだけでなく、多くの留学生を呼び込み、教育、研究活動を通して国際交流を促進させる。また、グローバル化する企業との産学連携を通して、立教大学自身もグローバル経済の発展に係る形でともに発展していく。

(3) KGI (重要目標達成指標)、KPI (重要業績評価指標) の設定

KGI (重要目標達成指標)

教育力、研究力、国際化、ブランド力、経営力、競争力 (他校比較) といった大学が持つ課題に対し、独自路線を貫くことも大切だが、他校と比較した際の立教大学の立ち位置を確認することも重要な問題と考え、これら項目に対し目標を設定して実行する。

KPI (重要業績評価指標)

ST比 (学生と教員の比率)、志願者数・倍率、TGU 関連指標、就職実績、施設面積、財政比率などに対し、具体的な数値目標を設定して発展するために、ダッシュボードにて管理・運用を行う。

(4) 中核戦略 (実際に何を行うのか)

1. 社会をリードする新学部、研究科、学部学科の再編

- ①人工知能科学研究科、スポーツウェルネス学部の具体化
- ②社会のニーズに応え、学部・研究科のリソースを活かした再編
- ③先進的・特徴的な研究・教育の質的充実を目的とした学部・研究科の将来構想実現
- ④学内外に蓄積された情報の整理・活用を進める情報戦略の構築

2. 立教グローバル戦略 2.0ー「世界水準」の実現ー

- ①増加する留学生への支援体制の強化ー受け入れと送り出しの双方向をサポート
- ②世界水準の国際化に向け外国語による科目の増設
- ③リンケージプログラムの発展的展開
- ④GLAP の発展による教学面の国際化推進

3. 卓越した研究力の形成ー戦略的・組織的な取り組みの実践ー

- ①全学的な研究環境・研究支援体制・研究マネジメントの整備
- ②産学官・社会連携や学際的研究の推進

4. 大学運営の高度化一次の時代に向けた新戦略一

- ①時代に相応しい新しい職員人事制度と組織政策
- ②活力ある教学展開と財政基盤強化
- ③広報戦略、体制の抜本の見直しによる広報力の強化
- ④新たな情報戦略を支える情報システム整備と組織改革
- ⑤立教・クロス・ファンクショナル・チーム (RCFT) の設置

(5) 基盤戦略 (紹介)

- 1. キャンパスメイキング基本構想・計画策定
- 2. 新座キャンパスの活性化
- 3. 体育会の活性化推進
- 4. 創立 150 周年記念事業の推進 及び 記念募金活動の取り組み

(6) 【取り組み事例】人工知能科学研究科 (2020 年 4 月開設)

以下を目的とし、様々な企業と連携し、社会実装という形で、共同研究や人材育成の取り組みを行う。

- 1. 人工知能やビッグデータ解析技術を駆使し、新しい知を創出する
- 2. 人工知能・データサイエンスの深奥を極めた人材を社会に輩出
- 3. 超スマート社会の実現に積極的に貢献

特徴は以下の通り。

- 1. 機械学習・ディープラーニングの本格的な学習
- 2. 「社会科学×AI」による革新的な研究と人材育成
- 3. 産学連携による「社会実装」プログラムの充実
- 4. 昼夜開講形式で、社会人も学びやすい環境

(7) 【取り組み事例】「立教箱根駅伝 2024」事業

150 周年を迎える 2024 年に行われる「箱根駅伝第 100 回大会」における、本選復帰と世界レベルの選手育成を目指す。駅伝の指導者として上野裕一郎氏を 2018 年 12 月より迎えた。また、2019 年度には選手のための寮を建設する。2020 年に入学する 1 年生が 4 年生の時の駅伝出場を想定している。

2. 各委員からの意見

- ・人工知能科学研究科について、ビッグデータを使いこなせる人材はどの業界も枯渇している。育成に時間もかかるため、大変意欲的な取り組みである。
- ・なぜ、世界ではなく「アジアで際立つ」大学なのか。立教大学が目指す最終的かつ理想的なビジョンを一度セットした上で、その中間目標として「アジアで際立つ」と示した方が理解は深まる。現状ではビジョンとしては少し物足りない。
- ・日本を代表するスーパーグローバル大学を目指すにはスピード感が足りない。大学内のコンセンサスを切り切るのではなく、強いリーダーシップで決定し、仮説検証のPDCAサイクルを回していかなければやりきれないのではないか。
- ・立教大学の売りの一つに観光分野があるが、外から見ているとアカデミック寄りになってしまい、実業界との関係が希薄になっているように感じている。より産学連携を強化したら良いのでは。
- ・卒業生ともっと連帯感を高めていくために、同窓会組織の充実が求められる。大学に足を運ばなくても今の大学をリアルタイムで共有できるような仕組みを、SNSなどを活用して構築してはどうか。
- ・池袋はアートとカルチャーの街。立教大学のこれからと非常にリンクする。技術やテクノロジーは最終的にアートとカルチャーに落とし込んでこそ、初めて人が使えるものになるわけで、立教大学の持つリベラルアーツの強さは必ず日本を正しい方向に導く。それを世の中にどう発信するかを考える必要がある。時には大胆さも必要であろう。また、一番のステークホルダーである2万人の学生の発信力を活用することも必要である。
- ・立教大学のポジショニングをもっと考える必要がある。立教大学は観光やホスピタリティという分野に先見性があり、日本のマーケットを作ってきた実績があるので、立教独自の路線で人材を世の中に送り出すという考えもあると思う。
- ・場当たりに広報して、一貫性がない伝え方をしているように感じる。今回作られたビジョンを今後実施していくという意味では、このビジョンに沿って広報を一本に絞って伝えていく方法が良いと思う。
- ・今立教大学が持っているコンピテンシーやUSP（独自の売り）は、立教本来が持っているものではないか。そこを起点にしてしまうと、他大学に勝てる戦略にはならない。本来の強みをもっと分析した上で戦略を考えるべき。また、卒業生が輝いている大学に入りたいと思うのが、受験生や保護者の大半ではないか。その意味でも卒業生との連携をもっと深めたほうが良い。
- ・人工知能科学研究科もスポーツウエルネス学部も、アカデミックになりすぎる必要はない。企業に入った時に本当に役立つ知識を与えられる企業人の招聘を検討してはどうか。
- ・2024年だけではなく、2040年、2050年にどうなっていきたいかを考えるべきである。例えば、SDGsで掲げられているゴールに対し、立教はどう応えていくのか。これがUSPに直結すると思う。
- ・広報活動について、大物OBのトークショーを実現したり、人工知能科学研究科の記事を

はじめ都度記事になっている印象もあり、比較的発信しているという印象がある。

・他大学との差別化だと結局どこかで同質化してしまうため、独自化の道を取ったほうが、中長期で見た時、繁栄しブランドが高まる可能性があるかもしれない。

3. 総長からの総括

「立教大学が社会から見たらどう映るのか、目指すべき方向は何かということについて、理解できた。一層スピード感を持って取り組まなければならないと実感した。創立 150 周年に向けて、キリスト教に基づく大学として最初に作られた学校としての責務、使命を痛感し、日本あるいは世界の 21 世紀の経済社会の一翼を担い、立教大学が多くの人材を輩出しながら社会に貢献できる大学として、生き残るための戦術（アクションプラン）を 19 年度には作っていきたい」と郭総長より総括があり、終了した。

以上